

南アフリカ為替週報

2022年10月6日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(9月29日～10月5日)

USD/ZAR: 17.5700～18.1100

ZAR/JPY: 7.99～8.19 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドル、対円共に、方向感の交錯した横ばい先行から、3～4日にかけて予想外の上昇。その後、5日には反落したものの、この間を振り返れば、対ドル、対円共に若干水準を切り上げた。もっとも、過去28ヵ月余り(コロナ禍第1波一巡後以降の相場)を振り返れば、引き続き、安値圏を抜け出した値動きとは言えなかった。30日発表された南ア8月貿易収支は、黒字にはとどまったものの、市場予想を大幅に下回る(黒字額が小さい)内容となった。もっとも、この発表を受けたランドの反応は、一時的に、小幅下押しした程度だった。3日のランド上昇は、南ア国債の利回り低下(価格は上昇)と並行したが、この日は世界中の長期金利が押し並べて低下していたので(後述)、それだけでランドが反発したと考えるのは、あまり筋の通った話のように思われなかった。南ア準備銀行ガニヤホ総裁が、4日、「我々が(金融政策正常化に)先んじているとは思わない」「利上げ(の幅)はまだまだ浅い」など、追加利上げに積極的と読める発言をしたことが、ランド続騰につながった可能性も考えられなくはなかったものの、長期金利低下でランドが買われ、追加利上げ期待に更にランドが買われたというのは辻褄が合わない発想のようにも思われた。5日のランド反落の要因もはっきりとはしなかったが、同日、OPEC+が日量2百万バレルの減産に合意したことが、ランド下押しを誘った可能性は考えられた。同減産は、少なくとも数日前から観測されていたものの、同決定を受けて原油価格はもう一段続伸。上述、貿易/経常収支の悪化基調に鑑みても、純燃料輸入国である南アの通貨には、重石となる展開と言えた。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/29	6:00	民間部門信用(前年比)	8月	+7.86%	+6.80%	+7.06%
9/30	12:00	貿易収支(ZAR)	8月	+7.2bn	+23.7bn	+24.8bn
	12:00	財政収支(ZAR)	8月	-42.7bn	-45.0bn	-129.5bn
10/3	11:51	自動車販売台数(前年比)	9月	+10.8%	+12.2%	+14.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(10月6日～10月12日)

USD/ZAR: 17.500～18.000

ZAR/JPY: 8.05～8.25

向こう1週間の南ア・ランド相場は、引き続き、足元安値圏における膠着を予想。年初来、既に貿易黒字の縮小基調は鮮明だったものの、8月貿易黒字の下振れは、第2四半期経常収支における配当支出増と併せ、あらためて南ア対外収支の悪化基調を裏付ける数字と言えた。交易条件の改善(商品価格上昇とランド安)を受けた経常収支の明確な改善が、2021年に前後したランド反発の大きな原動力だっただけに、この基調は、ランドにとって明らかな悪材料。南ア経済成長の最大の阻害要因となった電力事情(連日の計画停電)にも、この間、評価できるような改善はなかった。長期金利低下が世界共通であっても、それを現金(ドル)からリスク資産への資金の回帰=リスク許容量の高まりと読むのであれば、敢えて、ランドを含む新興市場通貨が好感したとしても、腑に落ちない話とは言えなかったかもしれない。同じ文脈で、前後して、プラチナなどの資源価格も上昇していたのは、二重の意味で、ランド押し上げ要因と読むこともできただろう。ただ、長期金利低下、商品価格上昇のきっかけを提供したのは、3日発表された米ISMの9月景況感指数の下振れだったと言う。景況感の悪化に「米連銀が利上げのペースを緩めるのでは？」というのがその解釈だが、景気悪化が、巡り巡って株高や商品高、更には新興市場通貨押し上げに寄与するというのは、本末転倒も過ぎるのではなからうか。もちろん、相場という空間において起こり得ることだが、あまりついていきたくない動きではない。

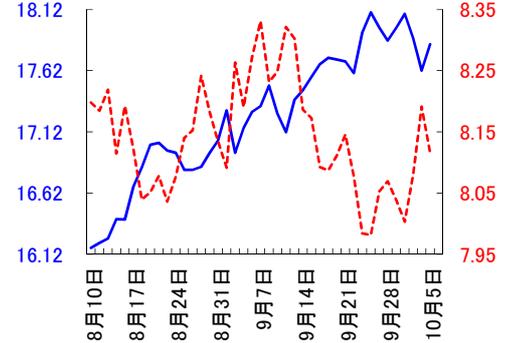
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/7	6:00	総外貨準備高(USD)	9月		59.15bn	59.76bn
10/8-10/14		企業景況感指数	9月			110.3
10/11	11:00	製造業生産(前年比)	8月			+3.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

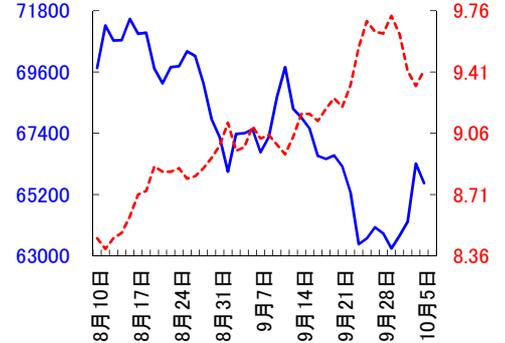
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		6.25%
長期金利(10年スワップ)	10月5日	9.420%
株価指数(JSE全株)	10月5日	65612.76
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	8月	+7.6%
小売売上高(前年比)	7月	+8.6%
製造業生産(前年比)	7月	+3.7%
鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%
貿易収支(ZAR)	8月	+7.2bn
金価格(ロンドン17:00)	10月5日	1709.26

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。